

カトリック 新潟教区報

第247号 2012(平成24)年11月10日 発行

編集・発行 カトリック新潟教区広報委員会
〒951-8106 新潟市中央区東大畑通1-656
TEL 025-222-7457 FAX 025-222-7467



教区
100周年

あなた方は地の塩、世の光である

100年の歩みに感謝し
宣教する共同体をめざして



記念ミサで説教される菊地司教

新潟教区創立百年記念ミサ

菊地司教説教(全文)

「言の内に命があった。命は人間を照らす光であった」

司祭人事

() はこれまでの任務

二〇一二年十月十四日付 任命

《山形地区》

▼本間研二師 米沢教会(長井巡回教会)小教区管理者(山形教会主任兼任)

への熱意は、教会共同体が成熟していることをはっきりと表すしるしです」(「主の言葉」九十五)

その上で教皇様は、「教会とは、神の言葉を聞き、のべ伝える共同体」なのだと指摘されています。

私たちの共同体は、その務めに忠実でありましょうか。

私たちは、百年という時を経て、成熟した共同体になったのでしょうか。

私たちは、宣教への熱意を、心のうちに燃え立たせているでしょうか。

私たちは、神の言葉に耳をかたむけ、それを伝えようとしているでしょうか。

新潟教区では、百周年を機に、福音宣教のための優先課題の見直しを行いました。それは次の三項目です。

A…世代、国籍、文化の違いを乗り越え、喜びと思いやりにあふれた

「私たちの教会」を育てる。

B…教区、地区、小教区において、お互いの情報を共有し交わりを深めることで、社会における教会の役割を自覚する。

C…継続した信仰養成を充実させ、社会の現実のうちで言葉と行いを通じて福音を証しする信仰者へと脱皮する。

新潟教区のそれぞれの小教区は、共通する多くの課題を抱えています。例えば、激しく進む少子高齢化や過疎化の問題、

暗やみの中に輝く光、すべての人を照らす生命の光を、私たちの教会共同体はこの地域において、この新潟教区において、高く掲げようと努めてきました。信仰を同じくする仲間達は、一つの体のそれぞれ部分として、言葉と行いを通じて光を証しすることに真摯に取り組み、いま百年という時を刻みました。新たな歴史の一步を踏み出す時にあたり、これまでの歴史を刻んできた教区の先達の信仰と働きに心から感謝いたしましょう。また私たちの教会共同体を導いてくださ

る主のはからいを心にとめ、その招きに信頼のうちに応える決意を新たにしたいと思えます
新潟県、山形県、秋田県における福音宣教の歴史は、例えば米沢における福音殉教者の存在や、佐渡島におけるキリシタン塚の存在が示しているように、すでに四百年も前に始まっております。とりわけ福者ルイス甘糟右衛門に代表される米沢のキリスト者共同体は、一時はその数二千人を越えたと記録されています。五十三名の福者殉教者達をはじめ、

その時代に生きたキリスト者の言葉と行いによる信仰の証しは、現代に生きる私たちの教会共同体にとっての力強い模範であり、堅固な礎となっています。
禁教の時代が終わり、宣教師が再び新潟の地を訪れ活動を開始したのはいまから一四十年前、一八七一年のことです。それから四十年ほどが経過した一九一二年(大正元年)八月十三日、函館教区から秋田、山形、新潟が、そして東京教区から富山、石川、福井が分割されて新潟使徒座知牧区が創設され、当時来日したばかりの神言修道会にその宣教が委託されました。初代の教区長は神言会員のヨゼフ・ライネルス神父でありました。
それから五十年が経過した一九六二年四月十六日、新潟は司教区となり、当時横浜の山手教会主任であった伊藤庄治郎師が初代の教区司教に任命されました。
知牧区となつて百年、教区となつて五十年。函館教区時代から、日本海側のこの地域は宣教が難しいと考えられていたようです。その状況はいまでも大きくは変わっていません。秋田、山形、新潟の三県で四百万人を超える総人口があるなか、カトリックの信徒数は七千人前後で、この四十年ほど推移しています。結果としての統計だけを見ていくのであれば、宣教は必ずしも成功したとは言えないのかもしれませんが、しかし私たちにとって重要なことは、数えることができる結果がどうであるかなのではないと私は思います。問題は、どれほどの勢いで、暗やみに輝く光、生命の光をこの社会の中に掲げてきたのか。私たちのキリスト者としての生き方、あり方それ自体が、問われているのです。
教皇様は、使徒的勧告「主の言葉」において、次のように指摘されています。
「教会は、すでにキリストの福音を知っている人々を『維持』する司牧活動だけすればよいものではありません。宣教

言葉や文化の違いを乗り越える困難、司祭の高齢化と後継者の不在、若者の不在などという様々な問題が、小教区共同体に重くのしかかっています。

しかし同時に、そういった困難の中にも、希望の光が幾つも見受けられます。それは例えば、教区内各地におけるフィリピンなど海外から来られた信徒の存在です。私は、彼らこそは今の時代における神のほからいによる新たな宣教者の派遣であると信じています。

様々な問題に苦しみながら、それでもなお社会の現実の中で福音を証しするために、私たちはどうあるべきか、教区共同体全体の福音宣教への姿勢を記した優先課題です。互いに共同体を形作る皆さんと一緒に、福音を一人でも多くの人に伝える業に、百周年を機に改めて取り組みましょう。それが私たちに与えられた使命です。

いまだ五十年前、一九六二年十月十一日、第二バチカン公会議が始まりました。それを思い起こしながら、間もなく十月十一日から一年間、信仰年が始まります。新潟教区では、今日のこのミサが、信仰年の開始を告げるミサでもあります。信仰の根本を見直すことは、当然私たちが一人ひとりに、その与えられた使命の再確認を迫ります。その意味で、教区百周年が信仰年と重なることには深い意義があると感じています。

教皇ヨハネス二十三世が第二バチカン公会議を招集されたのは、一九六一年のクリスマスでした。そのときの使徒憲章「フマーネ・サル・テイス」にこう記されています。

「人類が新時代への転機に立っている現在、これまでの転換期にそうであったように、教会の任務は重い。教会は現代世界の血管に、福音の永遠の力、世界を生かす神の力を送りこまなければならない」

百年を迎えた新潟教区がこれからも、『現代世界の血管に、福音の永遠の力、世界を生かす神の力を送り』込むことができますように、私たちの歩みを主が導いてくださるように、共に祈りましょう。

新潟教区創立百周年

記念行事・教区信徒大会開催

午後一時三十分、オルガンの音とともに聖堂に聖歌「新しい歌を主にうたえ」が響きわたる主司式の菊地司教をはじめ司教団・司祭団が一堂。

十月七・八日の二日間、司教座聖堂のカトリック新潟教会で教区百周年を祝う記念ミサ・式典及び教区信徒大会が開催された。記念ミサには七百人を超える参加があり聖堂正面と側面にテントを設置し、さらに信徒会館一階研究室にも席をつくり共に祈りを捧げた。

ミサは菊地司教が主司式をし、ジョセフ・チェノットウ教皇大使、岡田武夫大司教、梅村昌弘司教、平賀徹夫司教、パリ外国宣教会、神言修道会、フランシスコ会、イエズス・マリアの聖心会の管区長をはじめ四十名を超える司教団・司祭団の共同司式ですめられた。

菊地司教は説教の中で「百年という時を刻み、新たな歴史の一步を踏み出すときにあたり、先達の信仰と働きに心から

感謝し、主のほからいを心にとめ、その招きに信頼のうちに応える決意を新たにしたい」と呼び掛けられた。(説教全文を冒頭に掲載・英文は司教ホームページでご覧ください)

説教の後、十字架リレー到着式が行われ、一年をかけ教区全体を巡った二つの十字架が帰ってきた。北は鹿角教会、南は糸魚川教会から運ばれ、一緒に巡ったノートと共に奉納された。

拝領後、青年たちが作詞作曲した「百周年の歌」が披露され閉会した。

ミサ後、引き続き記念式典が行われた。

はじめに菊地司教が挨拶に立ち「百周年の歩みをふりかえり、信仰年にあたって新たな恵みをしっかりと歩んで行く決意をしたい」と述べられた後、ご出席いただいているご来賓の司教様・管区長様方のご紹介があった。

（ご来賓の祝辞）（要旨）

ローマ教皇庁大使 ジョセフ・チェノットウ大司教様

※教皇様からのメッセージを代読された。(通訳・菊地司教)

教皇様は新潟知牧区創設百周年、教区創設五十周年を喜ばれ、

(一) このお祝いがキリストに出会う喜びと出会いへの新たな熱意を呼び覚まし、信仰の道を再発見する機会となるだろうと確信しておられる。

(二) 洗礼を受けた人々が神の子としての尊厳とキリストの体の一部であるという誇りを抱き、教区の信徒一人ひとりが聖性に目覚め、この世の使命に忠実であらうとするよう祈る。

(三) 多くの若者が主の呼び掛けに応



ジョセフ・チェノットウ大司教

え、司祭、修道者の道を選ぶことに期待している。

(四) 普遍教会が新しい福音宣教に取り組もうとしているとき、新潟教区が生き生きとした喜びの信仰を持ってそれに応え、長年にわたって新潟教区に奉仕された多くの宣教師や修道者に倣う準備があると確信している。と告げられ、最後に日本語で「いっしょに働きましょう」と締めくくられた。

東京教会管区代表

東京大司教区 岡田武夫大司教様

東京教区は新潟教区と特別な関係で結ばれている。これからも両教区が理解と協力を進めることができるよう祈っている。さらに私たちは復活されたイエス・キリストを信じている。復活に向かって歩まれたイエス・キリストの歩み、ナザレのイエスとしての歩み、それは信仰の創始者、導き手、そして完成されたイエス・キリストの恵みである。イエス・キリストの歩みに倣い、信仰年においてイエス・キリストの生涯をみつめ、学びながら信仰を強めていけるよう祈りましょう。



岡田武夫大司教

宣教会・修道会代表
パリ外国宣教会日本管区長 オリビエ・シュガレ神父様

この記念にあたり、この地に豊かな収穫をもたらしてくださった神様、そして新潟教区の誕生に深くかわってくださった私たちの先輩、宣教の任務を引き継いでくださった神言修道会、フランシスコ会、聖心会、聖霊修道会のシスター全ての方にありがとうと申しあげたい。一八六八年に始まり四十四年間ほど続いてきたパリ外国宣教会の活動について、最初の十二年間の迫害期の中から徐々に布教の実りが見え始めてきたこと。新潟から秋田、山形へ広がる様子。当時の宣教師には巡回型と定着型の二つのタイプがあったが、いずれも共通の開拓精神と先駆者の役割を強く持っていたと歴史の流れにそって紹介された。

また、一九〇六年を機に神言会に引き継がれ、その後フランシスコ会が新しい息を吹き込んだことなどを詳しく紹介された。

いま私たちは現実の様々な困難と直面し日本の宣教に行き詰るものを感じているかもしれない。その時こそ私たちは昔の宣教師の話を聞き、巡回の精神、開拓の精神、協力的な精神に立ち返り、新し

「横浜天主堂は十一月二十四日献堂百五

祝辞は横浜教区梅村昌弘司教様より

場所をかえて
祝賀会を開催

最後に菊地司教からロシアのハバロフ



オリビエ・シュガレ神父



東映ホテルにて祝賀会



ハンドベル演奏

十年の祝いが行われる。教会は神の民、
これからも新潟教区の皆さんと歩みを共
にしたい」と話された。
つづいて新潟県知事のお祝いの言葉が
代読され、乾杯は神言修道会日本管区長
市瀬英昭神父様より「神様の恵みのも
と、信仰の光を照らし続けていくことが
できますように」と発声。
会は「青年たち作詞作曲の百周年の
歌、信徒による独唱、新庄教会有志のダ
ンス、新潟市内教会の特設合唱団の歌」
などが演じられ、瞬く間の二時間が流
れた。



100周年記念講演会

記念講演会は上智大学教授・イエズス
会司祭の瀬本正之神父に『今の私の宣教
宣言ー全人的発展に向けた和解の奉仕を
めざして』という演題でお話を頂きました
。瀬本神父の講演のスタイルは座って
話をするスタイルでなく、上智大学で教
えられているためもあり聴衆の顔を見な
がら講演机の前に立つて身振り手振りを
入れながら話をするスタイルでした。最
初に瀬本神父の発案で聖歌「聖なる息吹
を」を皆で歌い講演が始まりました。講
演内容は、この信徒大会で奉納する「宣
教宣言」のために、瀬本神父自らの「宣
教宣言」を中心にお話を頂きました。信
徒による福音宣教のヒントを頂きました。

教区創立百周年記念教区信徒大会
「福音宣教の新たな一歩を
踏み出すために」

晴天の秋晴れ。教区創立百周年記念教
区信徒大会（以下、信徒大会）は三百五
十名を超える参加者に恵まれました。信
徒大会の開催にあたり、菊地司教から次
の百年に向けて元氣の出る大会にして欲
しいという要望があり、一年以上前から
何度も大会プログラムについて会議を行
いました。信徒大会のプログラムは①記
念講演会、②信仰年と宣教宣言について
の司教講話、③聖体礼拝と宣教宣言の奉
納の三部構成で開催しました。

信仰年と宣教宣言についての司教講話
は、教区宣教宣言の説明と十月十一日か
ら始まる「信仰年」についてでした。信
仰年は何か行事をするためのものではな
く、一人ひとりの信仰を振り返る一年で
あること。信仰年で、①聖書を読み返
す、②典礼を通じて正確に再確認をす
る、③カテキズムを学ぶといった三つの
事柄について信仰生活を見直し、さらに
日本の現代社会の状況を踏まえ教区内外
の人々と共に何ができるか新しい福音宣
教の方法・表現を探し求める年であるこ
と（信仰年の詳細は日本司教団のメッ
セージ「信仰年を迎えるにあたって日本
の教会の課題」を参照）。信仰を突き詰
めると福音宣教に必ず突き当たること。
そして、一人ひとりが教会共同体を通じ
てどのように信仰を伝えていくのか考え
ることが大切であること等、お話を頂き
ました。さらに「教区宣教宣言」の説明
では、「教区宣教宣言」にある三つの優
先課題はこれまでの教区優先課題を踏襲
し、さらに言葉を少し付け加え内容の幅
を持たせたものになっていること。教区
宣教宣言を受け、私たちは一人ひとり福
音宣教の使命を果たし、米沢の殉教者に
倣い、証することが大切であること。教
区創立百周年を機会に、一人ひとりに宣
教宣言をしてもらい、信徒大会の中で奉
納することにしたいとの説明がありまし
た。さらに、一人ひとりに書いてもらう
「宣教宣言」は、今の自分には不可能と
思っている人も努力するという意味でサ
インをし、意志を示してもらいたいこ
と、今日までに宣教宣言を書くのが間に
合わなかった方は、後日教区事務所へ
送って欲しいという呼びかけがありまし
た。書いた宣教宣言は最終的には製本
し、司教館で保管する予定です。

聖体礼拝と宣教宣言の奉納では、聖体
礼拝の説教の中で菊地司教からもう一つ
の新潟教区の課題として教区に数年来神
学生がいらない召命の問題があることに
ついて話がありました。その後、奉納で小
教区の信徒代表者より「宣教宣言」を奉
納することが出来ました。

信徒大会の最後に、新潟教区と姉妹教



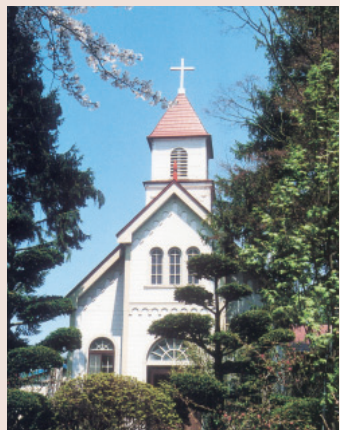
聖体礼拝式

会にあり百周年記念行事にご招待したイ
ルクリック教区ハバロフスク教会との交
流会があり、参加した二名の司祭と二名
の信徒の紹介が行われ、この百周年記念
行事で教区を回った十字架リレーの十字
架を贈呈（一本は新潟教区で保管し、も
う一本はハバロフスク教会へ贈呈）しま
した。ハバロフスク教会からは「カザン
の聖母」のアイコンが贈呈され、交流を深
めました。

以上のプログラムの他に司教館建設委
員会から新司教館建設についての話があ
りました。老朽化が進む司教館の建て替
えとして一億七千万円の建設費がかかる
との説明があり、既に始まっている特別
献金への協力をお願いがありました。大
会期間中に会場内で新司教館の模型展示
があり、色々とご意見を伺いました。

最後に今回の信徒大会では手話通訳と
要約筆記を行いました。新潟教区は小さ
な教区であるため、教区の信徒だけで障
がい者の支援は難しい状況であり、今回
は二〇〇九年八月に新潟で開催した力障
連新潟大会（主催・日本カトリック障害
者連絡協議会）で知り合った仙台教区、
名古屋教区、東京教区の信徒の方々に
お手伝いを頂きました。ここに記して感謝
の意を表したいと思います。

（信徒大会部会 坂口淳）



③ 鹿角教会 (天の元后聖マリア)



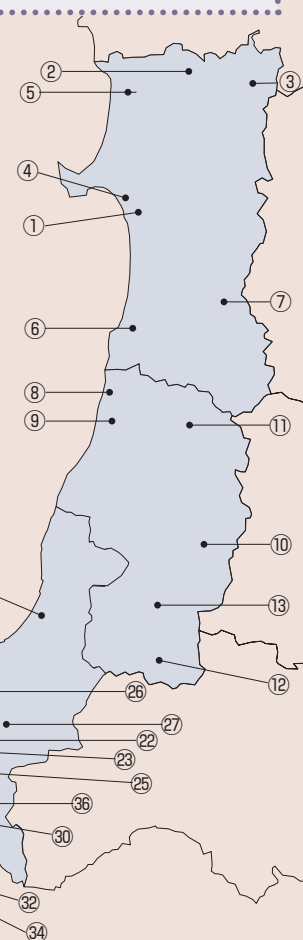
② 大館教会 (大天使聖ミカエル)



① 秋田教会 (聖アウグスチヌス)

100周年
ございます。

体がイエス・キ
与かり信仰に強
に



⑥ 本庄教会 (聖家族)



⑤ 能代教会 (聖ペトロ・聖パウロ)



④ 土崎教会 (勤労者聖ヨセフ)



⑨ 鶴岡教会 (聖マリア)



⑧ 酒田教会 (聖ヨセフ)



⑦ 横手教会 (幼きイエス)



⑫ 米沢教会 (聖クレメンス)



⑪ 新庄(巡)教会 (雪の聖母)



⑩ 山形教会 (洗礼者聖ヨハネ)



⑮ 亀田教会 (聖ヨセフ)



⑭ 青山教会 (聖家族)



⑬ 長井(巡)教会 (王であるキリスト)



⑱ 寺尾教会 (使徒聖ヨハネ)



⑰ 白根教会 (聖ペトロ・聖パウロ)



⑯ 佐渡教会 (聖スザンナ)



②1鳥屋野(分)教会(聖ヨセフ)



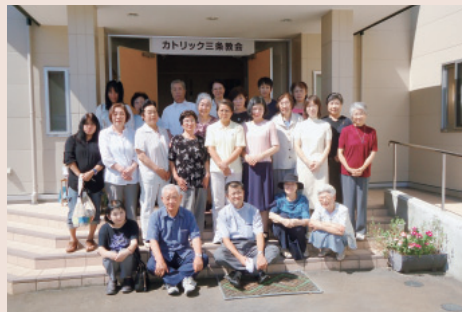
②0花園教会(守護の天使)



①9新潟教会(王であるキリスト)



②4新発田教会(イエスのみ心)



②3三条教会(王であるキリスト)



②2加茂教会(救い主なるキリスト)

**教区創立
おめでとう**
わたしたち共同
リストの恵みに
められますよう



②7村松(巡)教会(聖母の汚れなきみ心)



②6新津教会(聖アンナ)



②5栃尾教会(無原罪の聖母)



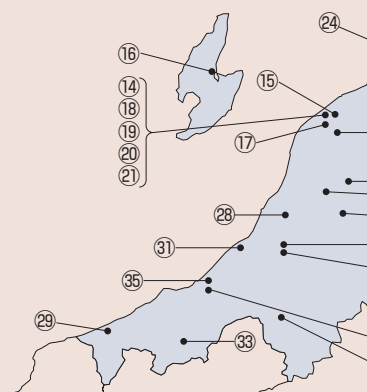
③0表町教会(聖ヨセフ)



②9糸魚川教会(アシジの聖フランシスコ)



②8見附教会(無原罪の聖母)



③3妙高(巡)教会(雪の聖母)



③2高田教会(王であるキリスト)



③1柏崎教会(パドバの聖アントニオ)



③6福住教会(イエスのみ心)



③5直江津教会(お告げの聖母)



③4十日町教会(被昇天の聖母)

十字架リレーを終えて

十字架リレー部会

渡辺明紀（新発田教会）

新潟教区創立百周年おめでとうございます。二〇一一年十一月二十日の王であるキリストの主日に司教座聖堂を出発した二本の十字架は、多くの皆様の御協力をいただいたおかげで、無事に教区内をリレーされ二〇一二年十月七日に戻りました。皆様のご協力に心から感謝いたします。ありがとうございました。

さて十字架リレーの企画を考えるにあたり、出発は何時にしようか？本数は？ルートは？やり方は？誰にどこまで協力してもらうのか？等々、まったく手探りの状態からのスタートでした。しかし目的は何か？と考えた時に、司教様が掲げた三つの教区優先課題に資する活動にしなければという思いが部会にはありました。ご存知のように（一）世代や国籍を超えた交わりの共同体の構築（二）教区内の情報ネットワークの構築（三）一人ひとりの信仰養成がその課題です。（一）については、共同体の第一歩は、一緒に行動し同じ時間を過ごす事、互いに顔と名前の一致する信者を増やす事が必要と考え、出来るだけ多くの信徒と一緒に十字架をリレーしてもらいました。そしてできれば御ミサの後に茶話会を開いてもらい、語らいのひと時を共に過ごしてもらうこととしました。部会でもその効果を確かめるために、部会メンバーの教会を互いに



十字架リレー到着式1



十字架リレー到着式2

訪問しミサに参加した後に部会を開きアイディアを練りました。普段とは違う教会に行きミサに出ると新鮮な発見や気付きがありました。（二）については、広い教区の中で十字架が今何処をリレーされているのか？どのように十字架がリレーされているのか？等がわかるように、レポートを頂きブログにアップしました。ブログは約六五〇〇の閲覧がありました。今後の情報ネットワーク構築のための良い事例になったと思います。（三）については、十字架がリレーされている意義を司教様から御説教やブログの中で語っていただき意識を高めました。また各小教区で工夫をこらし、教区の歴史勉強会や信仰養成の講演会を開催したり、十字架訪問や黙想の時間を持つなどしていただきました。

またリレーノートについては、百周年の記念となる一方、他教会の様子を窺い知る事のできる楽しいものとなりました。今後二つのノートはコピー合本され、各小教区に一冊ずつ配布される予定です。

またリレーされた十字架の内、一つはハバロフスクへ、もう一つは新司教館に行くこととなりました。当初十字架が海を渡るとは部会メンバーも想像していませんでしたのでこのような結果で驚いています。

このリレーを通じて、多くの出会いがあり気付きがありました。これは百周年を機に与えられた大きなお恵みであったと思います。神様のお働きに感謝いたします。

（英語訳掲載）

As we have completed the relay of the Crucifixes.

Akinori Watanabe (Committee in charge of the relay of the Crucifixes)

Congratulations on the Centenary of Niigata Diocese. Two crucifixes which had begun their journey from the Cathedral on 20 November, 2011, on the feast of Christ the King, and had gone around the diocese with help and cooperation of many have arrived back safe on 7 October, 2012. Thank you so much for your heartfelt cooperation.

When we started our planning, we had to began everything from scratch. We had to wander about such matters as; when to begin, how many crucifixes, what about the route, how and whom to ask for cooperation. However, the members of the committee shared same sentiment over the purpose of the event that it should contribute to realize the three diocesan priorities which Bishop had indicated. As you know, three priorities are; 1: Building communities through overcoming differences of age and nationalities, 2: Build a information network within the diocese, and 3: Faith formation of each one.

As for the first priority, we were resolved that, in order to build communities, taking action and spending time together, and knowing each other are important factors. So we asked as many members as possible to join the relay. Also we asked host parishes to organize get-together with tea to have time to share stories after Mass. The committee regularly organized evaluation meeting after we had sent members to join actual relay to know the effect of such get-together. Attending Mass in parishes different from one's own provided us so many ideas and findings.

As for the second priority, we opened a blog to inform people about where about and how the crucifixes are relayed. The blog was visited by more than 6,500 times. It gave us good insight for future development of such means of communication in the diocese.

As for the third priority, Bishop himself explained meaning and purpose of the relay through his blog and homilies to deepen understandings. In many parishes, lectures to learn about history of diocese were organized. Also during the stay of crucifixes, visitation of crucifix and recollection were organized in many parishes.

The relay notebooks which went along with two crucifixes also made good contribution to share information on Church activities of each parishes and became good memorial of the celebration. These two notebooks will be copied and distributed to all the parishes in the diocese.

One of two crucifixes went around the diocese has been handed over to members of the Catholic community in Khabarovsk while the other will be used in the planned new Bishop's House. Since we did not imagine that the crucifix to cross the sea, we had pleasant surprise about this development.

We had so many encounters and findings through this relay event. That is, in fact, great gifts for us on the occasion of the centenary. We thank God for his wonderful works.

新司教館建設 特別献金始まる

一 献金目標額 一億円

二 献金の方法

①小教区を通して

毎月（または毎年）一定額を献金する

一人ひとりの献金額は任意です。

②教区本部へ直接

一度にまとまった額を献金くださる場合は、直接教区本部へご送金ください。専用の振込用紙は小教区に備

三

献金期間

二〇一二年八月十五日から三〇五年間を考えています。目標額に達したところで終了させていただきます。ご協力ください。

※専用の振込用紙を使用しない場合は通信欄に「新司教館特別献金」とご記入ください。

加入者名 カトリック新潟教区

振込先 ゆうちょ銀行 口座記号番号 005301

え付けています。

秋田地区

新潟教区創立百周年記念祝賀行事に参加して

秋田教会 アロイジオ 上野 智明

このたび、教区創立百周年記念ミサ・祝賀会・信徒大会に参加させていただきました。創立百周年という歴史の大きな節目に、自分が存在できたことを神様に感謝いたします。そして、これまでの間に私たちの信仰の礎としてご尽力くださった神父様方、シスター方、諸先輩方に尊敬と感謝の念を抱かずにはいられません。当日、各地区から集まった皆さんとたくさん喜びを分かち合うことができたことは、きつと一生忘れられない思い出になることでしょう。

さて、司教座聖堂の前にたたずむと、必ず思い出されるがあります。それは、今から二十九年、前、神言修道会の川上進神父様と土崎教会の佐々木久長さんとの三人で、新潟から秋田までの約二百八十キロの道のりを十泊十一日かけて歩いたことです。「平和のために歩く」を目的に、一九八三年八月六日、伊藤庄治郎司教様から祝福を受け、広島に原爆が投下された時刻に司教座聖堂を出発したのでした。真夏の炎天下、肩に食い込むリュックを背負い足の裏のまめをつぶし、野宿をしながら黙々と歩き続けました。不思議と苦しかったという記憶はなく、満天の星空や耳に心地よい潮騒の音とともに、無心のうちに一步一步勝手に足が出る感覚がよみが

えり、自分は生かされているのだという実感が今も思い起こされます。ふと、百年前にも、使命に燃えた若き宣教師たちがこの道筋をたどったのではないかとこの思いにかられます。もちろん、自分などその方々の足下にも及びませんが、今考えると感慨深いものがあります。

新潟教区が、これからも次の五十年、百年に向けて力強く歩んでいくことを願ってやみません。この思いは、今回の記念ミサや祝賀会の中で聞かせていただいた青年たちの力強い歌声によって確信へと変わりました。先人たちから受け継いだ自分たちの信仰は、確実に次の世代へと引き継がれていくことでしょう。



100周年ミサ

新発田地区

百周年の記念行事に与って

新津教会 山崎 糸平

新潟教区百周年記念ミサ式典に与りましたので一言感想を述べさせていただきます。

先ず最初に百年という長い歴史を見たときに、日本国のキリシタン迫害時代から外国人に対する不信感が根強く、異人と呼ばれ石を投げられ宣教不可能な実情の中で、風呂敷を肩に東京から歩いて来た宣

教師がいつも陽気で、穏やかな姿で歩きながら巡回していると慕われるなど、様々な具体的なことを記念誌で知り東北地域と土地を愛して骨を埋めた先人達の勇氣と信心なる愛にあらためて感動し神様のご加護にお祈りしました。

次に祝賀会に於いては、他の教会の親友を見つけては抱き合って再会を喜び懐かしい話に花を咲かせてる信徒達、何年ぶりに会った神父様方に挨拶して

いる情景が和やかでした。
また各教会の信徒、司祭の交わりと祈りが込められた十字架リレーの到着式も感動し、次の百年への祈りを捧げました。

短歌二首

☆二コースに分かれて出発の 十字架リレー十
箇月余りかかり 聖堂に戻りぬ

☆サハリンに十字架 新潟にマリア像 互ひに
贈りあひ親交深めり

新潟地区

記念ミサに与って

寺尾教会 庄司 末利子

前夜から降り続いていた雨も記念ミサが始まる頃には止み、皆心一つにしてミサに与ることが出来、本当に喜ばしいことでした。

私の実家は新潟教会の近くにあり、毎朝鳴り響く教会の鐘に慣れ親しんでいましたが、仏教徒である私の家では近くて遠い存在でした。それがこうして教区創立百周年という記念すべきミサに与るなんて、走馬燈のように様々なことが思い出され、感慨深いものがありました。

百年の歩み、先人たちのご苦勞は大変なものだったにちがひありません。一口に



100周年ミサ



100周年ミサ

訃報

新潟教区司祭

ヨゼフ 野田 實神父

(二〇一二年十月七日帰天 享年八十八歳)
略歴

一九二四年 北海道札幌市で生まれる

一九六一年 カトリック司祭として叙階

亀田・白根・見附の教会にて福音宣教、児童養護施設の設立、幼稚園ではモンテッソー

リ教育に力を注ぐ

一九九九年 引退



DIOCESE OF NIIGATA
656 Ichibancho, HigashiOhata-Dori
Chuo-ku, Niigata-shi 951-8106 Japan

カトリック新潟司教館
〒951-8106 新潟市中央区東大畑通一番町656
Tel.025-222-7457 Fax.025-222-7467

信仰年を始めるにあたって

新潟教区の皆様

「わたしたちは塩に塩気がなくなり、光が隠れたままにいるのを受け入れることができません
(マタイ5・13～16参照)」

教皇ベネディクト16世は、信仰年開催の告示である自発教令「信仰の門」にこのように記して、
私たちを新たな福音宣教へと招いておられます。

信仰年は、第二バチカン公会議開催50周年にあたる今年の10月11日に始まり来年2013年
11月24日に終わります。この一年間、私たちは信仰という賜物を受け継いだものとして、信仰の
原点をあらためて見直すことによって、「主のもとにとどまり、主とともに生きようとする決断」(「信
仰の門」10)を新たにし、自らの言葉と行いでそれをあかしするように招かれています。

創立100周年をお祝いしている新潟教区では、信仰年と合わせて、私たちの信仰の原点を今一度
学び直す時を持ちたいと思います。

司教団のメッセージも参考にして頂きたいのですが、小教区においては、主に次のような取り組み
を薦めたいと思います。それぞれの小教区で、独自の取り組みを話し合い、その結果を後日、主任司
祭を通じて教区までお伝え頂けると幸いです。

- 1：『信仰の門—「信仰年」開催の告示』を注意深く読み、黙想する
- 2：積極的に、感謝の祭儀にあずかる。
- 3：第二バチカン公会議文書と『カトリック教会のカテキズム』を学ぶことを通じて、「永遠の信仰
をもっとよく知り、将来の世代に伝える必要」を自覚する。
- 4：聖書のみ言葉により一層親しみ、祈りと分かち合いを通じて内面から刷新される努力を続ける。
- 5：「キリスト者としての召し出しはそのまま使徒職への召し出しでもある」ことを、自らの言葉と
行いを持って社会の中で「あかし」する。

新潟教区では10月7日の教区創立100周年感謝ミサを持って、信仰年を開始いたしました。
10月14日のそれぞれの小教区の主日ミサにおいては、信仰年の開催の式文を用い、実りある一年
となるようにお祈りください。

信仰のたまものを刷新するよう招かれたすべての信者は、信仰と愛の体験を伝える義務を受け継い
でいます。信仰年を通じて、私たちひとりひとりが自らの信仰の原点を振り返り、与えられた使命へ
の自覚を深めることができますように。

2012年10月11日



カトリック新潟教区 司教
タルチシオ菊地功

✠ 菊地 功 SUC